

タブレットを活用した先生紹介までの一連の活動と学習評価 (Here We Go! English Course1 Unit4 Our New Friend)

①書く

①統合

①話・発

②協・整

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

④Google ジャムボード等

①「Google ジャムボードの有効利用」

Google ジャムボードを利用し、表現したい内容と画像等を貼り付け、英作文を全体で交流し、よりわかりやすい英文を作成する。指導者はジャムボード上の英文を評価することができる。

②「端末をフルに活用」

先生方にインタビューをするときに写真撮影や動画を撮ることにより、情報をしっかりと収集する。

その情報を基に英作文を作成する際、端末で発音・表現方法を調べる。英作文の発表に関しては、発表の様子を動画に撮り、相手にわかりやすく伝えているかを確認し、改善する。

【実践の目標】

事前にインタビューした内容を踏まえて、ALT に対して、三高中学校の先生方の知らない情報を紹介することができる。

【実際の場面】

1. インタビューの質問事項を考える

質問項目を考えた。自分たちで ALT が知らない情報を考え、質問事項を設定した。

2. 先生方にインタビューをする

ペアになり、それぞれが担当をした先生に英語でインタビューを行った。その回答を端末のメモ機能や動画により活用した。

3. 英語表現を見直す

インタビューをした情報を英文に書き換えるための基本文法や、表現方法をスライドで復習した。



4. ジャムボードでマッピングする

先生から聞き取ったメモや動画をもとに、各自で与えられた Google ジャムボードを使って情報を付箋に貼っていき、マッピングをした。

この時に分からない英単語は端末の翻訳機能を使って調べた。

5. 英作文を作成

ジャムボードを参考に紹介文を英語で作成した。

6. 全体で交流

各自作成した英作文をジャムボードで交流し、良い点や改善点等の助言を記入した。

7. 英作文を推敲し完成する

ジャムボードの助言を参考に英作文を推敲し、完成文をワークシートに記入した。

8. 評価を行う

Google フォームの振り返りシートで自己評価を行った。後日、教師用フォルダに提出されたスライドとジャムボード、ふり返しシートについて、指導者が評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

○書くことが苦手な生徒に対しての支援として Google ジャムボードや端末機能を有効活用し、苦手な生徒も積極的に参加し、自分の言葉で考える時間が増えた。

○ジャムボード機能を活用して考えを短時間で共有し、改善することを主体的に考え、改善する活動が少しずつ定着しつつある。

【課題】

○評価規準について多面的に設定し、生徒に共有しておくことが大切だと感じた。さらに端末を生徒自身がシンキングツールとして活用できるよう工夫していく。その際に、生徒の思考過程が学習の足跡として端末に1時間毎記録し、その過程を見直す活動を通して、言語活動の充実を図っていく必要がある。

○書くことの活動においてアナログとデジタル両方のメリットを効果的に活用することができなかった。継続して他の機能を活用しながら、生徒が「書く」ことの学習効果を探し、英語部会で討議していく必要がある。

江田島市立三高中学校

